

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100167		
法人名	医療法人 祐和会		
事業所名	グループホーム ユーミー		
所在地	松江市津田町313番地		
自己評価作成日	令和2年1月14日	評価結果市町村受理日	令和2年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	令和2年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

掃除や洗濯干しや洗濯物を置く作業、裁縫やごみ箱折りなど、出来ることや得意なことを続けて頂くことで、『誰かの役に立っている』という、やりがいや自信をもって生活して頂けるよう支援しています。毎日の食事作りでは、献立を利用者様と一緒に考えることも多く、食べたいものを考える楽しみや、地域の方に差し入れて頂いた旬の食材を味わう楽しみをもって頂けるよう努めています。敬老会や新年会など、事業所での行事には家族の参加を呼びかけ、家族と一緒に過ごす機会を増やし、家族間の繋がりがや絆が保てるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者全員が女性で職員も経験年数豊富で入れ替わりがなく、落ち着いたアットホームな感じが強く、ホールからは歌声や体操の掛け声など明るい元気な声が良く聞こえていた。1ユニットでこじんまりとした落ち着いた雰囲気が感じられる。交通量の多い街中の施設のため散歩等の外出はしにくそうだが、日用品や食材の買い出しなど、担当と一緒にできるだけ外出の機会を持つようにしている。以前から公民館事業への参加を続けていることもあり、運営推進会議には地域の各団体の代表の参加が多くあり、災害時の協力も得られる関係ができています。各種の楽器演奏やコーラス、銭太鼓にマジック等のボランティア交流がとても盛んで、そのことが入居者の精神面の安定に繋がっているように見受けられた。今後においても特徴を生かして、より充実した生活が送れるよう取り組んでいただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を目の付くところに掲げて、職員全員が日々の業務で実践できるよう心掛けている。	勤務年数が長く経験豊富な職員がほとんど。改めて理念について話をする機会は少ないが、2か月に1回のミーティングの時間には意識共有できるよう話をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、運営推進会議や防災訓練などを通じ、地域の方と繋がりが保てるよう努めている。	地区の文化祭、運動会、夏祭り、毎月の茶話会には参加を続けている。新年会、敬老会、春秋の音楽会にはオカリナ、フルート、声楽、銭太鼓、マジック等多くのボランティアの協力があり交流が盛ん。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験学習や学生ボランティアの受け入れなどを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では参加者との意見交換をしながらサービスの向上に活かしている。	地域からは福祉推進委員、民生児童委員、公民館の運営協議会委員の他に近隣住民の方、市の代表に家族関係者の参加で定期に開催。敬老会や講習会等行事に合わせての開催で参加者を増やしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の場や、市役所の窓口、電話等での相談を通じ連携を図り、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営委員会には市から毎回参加があるし、包括からは入所の問い合わせを受けたり交流がある。現在も生活保護の方がいるが、今後も受け入れる意向で利用料を改定しており、担当課とは情報交換を密に行うようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な施設内研修や外部研修への参加を通じ、身体拘束について学び、全職員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	2Fが居住スペースになっており玄関は1Fの為日中は施錠せず出入りは自由になっている。身体拘束防止委員会を定期に開催し、具体例を挙げて理解するようにしている。グループホーム部会等の研修にも参加を続けている。	
7		○虐待の防止の徹底			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を中心に定期的な研修を実施している。外部研修にも積極的に参加し、全職員に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年度研修を行い理解を深め、必要時に関係機関への橋渡しができるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間を設け説明を行っている。問い合わせや質問には随時対応を行い理解や納得が得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場や年2回のアンケート調査、意見箱の設置等で意見や要望を聞き取り、出された要望には都度対応するよう心掛けている。	3か月に1回通信を送ったり、担当が毎月写真入りで様子を伝える便りを送っている。年2回のケアプラン見直しの際にはアンケートを送り幅広く意見を得ることができるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員からの意見や提案が出しやすいく関係づくりに努め、日常的に意見交換を行っている。	30代から60代で経験豊富な職員ばかりなので、定期的な面接は行っていない。管理者が必要と認めた場合にはするようにしているが、普段から何でも言えるような雰囲気作りを心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員個々の意見を聞き、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修や外部研修へ参加し、ひとり一人が意欲的に学べるよう支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム部会に参加し、他事業所職員との情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話等を通じてコミュニケーションを深め、関係づくりに努めている。 担当職員が中心に本人の希望や要望等を傾聴し、職員間での情報共有を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の時点で、家族からの要望を聞き、なるべく応えられるよう、職員間で情報を共有し、入居後も面会時や電話等で本人の状態を報告するなどして関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談等で得た情報を基に、必要なサービスを見極めている。 福祉用具が必要な際は専門員に相談し選定するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ひとり一人の身体状況や個性を踏まえて、出来る事や得意なことを一緒に行っている。 また利用者同士の支え合いもある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院介助を家族にお願いしたり、本人の心配事や行きたいところがあれば家族に相談して、外出や外泊等の支援をしてもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や人について、本人からの聞き取りや、入居後の関わりの中から把握し、家族と協力しながら関係継続ができるよう支援している。	昔を懐かしんでもらえるよう、初詣などの節目の行事を大切にしている。生活していた家より、生家を思い出すケースも多い為、近くをドライブするようにしている。美容院や買い物には今までの利用が続くよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ひとり一人の性格や趣味等を把握し、席位置を考慮している。利用者同士で声を掛け合い、助け合う姿や支えあう姿も見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居後の関係者に対して、本人の状況、習慣や好み等を詳しく伝えるようにしている。家族の了解を得て面会に行くこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の把握のできる方からは、日々の暮らしの中で聞き取りをしている。直接本人の思いを伺えない方については、生活歴や家族からの話を伺い、利用者本位を探る努力をしている。	今までの暮らしぶり、生活史、思い等を“私の暮らし方”として家族に記入してもらっている。本人からの聞き取りも含めて詳しいアセスメントを作成している。日ごろも会話の中からも聞き取るようにして記録に残している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報を踏まえて、本人、家族、関係者など幅広く情報収集を行うよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録には1日の時間に沿って記録を取っていることから、個々の過ごし方について把握しやすく、心身の状態変化には都度、カンファレンスを開き、改善策などを検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング結果、本人及び家族の意向を踏まえて職員間で話し合いプランを作成している。	モニタリングは毎月担当が短期目標に沿って行いまとめを記入している。担当者会議は家族の参加で開催しているが、遠方で参加が難しい場合には、電話での聞き取りやアンケート結果を基に行い現状に添ったものになるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録の他、日誌に特記事項や連絡事項を記入する欄を設け、全員が確実に変更点などの情報を共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望やニーズへはその都度対応できるように家族や関係者と協力しながら臨機応変な対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事への参加や、ボランティアによる歌や楽器の演奏会などを楽しんで頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を受診するか、協力医による往診を受けるかは本人及び家族が選択できるようにしている。	往診可能な協力医に変更することも、今までのかかりつけ医を続けることもできる。かかりつけ医の場合も受診の介助を行っている。協力医は緊急時や夜間、休日等の対応も可能になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	食事量や排せつチェック、バイタル測定等で日々の健康管理を行い、週1回看護師勤務時に報告を行い支持を仰いでいる。必要があれば医療機関への受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際には、病院の連携室と連絡を取り、状態把握を把握し、状態に応じて早期退院ができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約前に重度化及び看取りに関する指針について説明し、理解を得ている。状態に変化が生じたときは主治医及び家族に連絡し、その都度の対応を心掛けている。	今までも看取りを行っており、重度の場合も協力医の往診が可能であるので、家族関係者の希望があって、ここでの対応ができる範囲で今後も看取りに取り組む意向を持っている。	幅広い研修を実施することで、重度化や看取りの対応に繋げていただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当講習会、避難訓練等を定期的実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員配置の少ない夜間を想定した訓練を重点的に実施している。地区消防団との連携にも努めている。	1ユニットで夜間は1人体制のため夜間想定で火災を中心に訓練を行っている。浸水の場合は3Fが避難場所となっている。有事の際には、運営推進会議に出席の地域関係者や消防団の方に連絡が入り協力が得られる体制になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎年度接遇マナーに関する研修の場を設け、全職員で学び、言葉遣いや態度が乱れないよう心掛けている。	経験豊富な職員が多い反面、な～な～になりやすい場合もあるのでお互い気を付けるように話をしている。接遇研修も行っているが、何かあった時には注意し合える関係作りを心掛けている。方言の使い方も含め、相手に分かりやすいことばを意識している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、できるだけ利用者の思いを聞いたり、希望が確認できるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな1日の流れはあるが、その日にしたいことを聞きながら、一人ひとりのペースを大切にしよう支援している。レクリエーション等も本人の気が向かないときは参加を見合わせる対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え時には自分で洋服を選んでもらったり、身だしなみが不十分な時には声掛けをして一緒に整えたりしている。買い物では好きな洋服や小物を選んで購入される方もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べたいものや季節の物を取り入れて献立をその日に考えて調理している。利用者は野菜の下処理や味見、片付けやテーブル拭きなどできることを手伝い、職員と利用者が一緒に食事を楽しんでいる。	野菜の下準備や皿洗いや食器拭き、味見など職員と一緒にしている。野菜の差し入れもあり、その日の担当が献立を決め調理している。食材の買い物には利用者を出かけている。調理の際の音や臭いを感じられるように3食調理している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録に水分摂取量を記録し、水分量をチェックしている。体調にも配慮し、食事形態や食事内容も臨機応変に変更できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けをして、本人の状態に合わせて介助を行っている。また義歯については洗浄剤で洗浄するようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握して、それに合わせて誘導を行っている。	重度の方の場合は定期交換としているが、個々に合わせて声がけや確認をしている。紙パンツやパット使用者が多いため、尿量に合わせて使い分けたり、使用量をチェックしながら注文している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の管理や、適度な運動を促している。 朝食にはヨーグルトを提供し、食物繊維の多い食品を食事に取り入れるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間帯を設定しているが、本人の希望に合わせて変更も行っている。	家庭浴槽のため車いすの方の場合は中に入れないこともあり、シャワー浴対応としている。週に2回以上で希望に応じて毎日の方にも対応するようにしている。午前、午後どちらの時間帯にも入れるようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に部屋とホールの行き来をしてもらっている。個々の状態に応じて個別に運動やレクを行い、生活リズムを整え、夜間の睡眠がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の処方薬について、薬剤情報を確認し、内容に変更があれば記録して職員全員に周知し状態変化について把握するよう周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の関わりの中で、本人の希望を確認しながら支援している。役割を持ち、得意なことや趣味が続けられるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日用品の買い物や、気分転換のドライブや外出に出かけている。本人の希望を聞きながら家族の協力も得て外出が楽しめるよう支援している。	自分の日用品は担当職員と一緒に買い物に行くようにしている。その他に食材の買い出しも交代で出かけている。近くの川沿いを散歩したり、公民館行事に出かけたり、天候の良い日には外出の機会を増やすようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望がある場合は家族の理解を得て少額の現金を所持してもらっている。できる方には買い物などの支払いをして頂くこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある時は、子機を利用して居室で電話が出来るよう援助している。携帯電話を持っている方もいる。手紙や年賀状のやり取りを楽しまれる方もあり、支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には観葉植物や季節の花を飾ったり、利用者と一緒についた季節にあった飾りつけを行い、生活感を出すようにしている。	3階建ての2階部分が居住スペースで道路に面しているが比較的静かで、窓からも陽が良く入り明るい。ホールには季節の花がきれいに飾られ、手作業、習字などの作品も季節に合わせて変えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを置き、気の合う利用者同士で話したり、互いに交流ができるスペースとなるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具を持参してもらったり、家族の写真を飾ったり、お花を育てられたりと、居心地よく過ごせるように配慮している。	鏡台やソファにタンス、洋服かけ、イス等以前使っていた物が多く持ち込まれている。はって移動する方には床にマットレス対応の場合もあり、身体状況に合わせている。各部屋に三角の出窓があり明るくいい雰囲気になっている。。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内は手すりの接地や段差解消などをして転倒予防に努めている。居室やトイレには分かりやすいよう名札を付ける工夫をしている。		